

---

第 195 回松本歯科大学大学院セミナー

日 時: 2009 年 5 月 21 日(木) 17 時 30 分~19 時 00 分

場 所: 実習館 2 階総合歯科医学研究所セミナールーム

演 者: 前田 初彦 氏 (愛知学院大学歯学部口腔病理学講座・教授)

タイトル: 口腔領域におけるヒトパピローマウイルス感染と DNA ワクチン

子宮頸癌は婦人科癌の中で 3 番目に多く、若い女性には最もよくみられるガンです。その原因としてヒトパピローマウイルス(HPV)感染が注目されています。HPV 感染による病変は口腔領域でもさまざまな疾患に参与していることがわかってきました。白板症、乳頭腫、尋常性疣贅などの良性病変や、最も多い悪性病変である扁平上皮癌があげられます。そしてその感染のメカニズムもわかってきました。また疫学調査の結果、口腔清掃状態と HPV の感染になんらかの関連があることもわかってきています。

最近になり、HPV が関与するガンをワクチンで予防する試みがされています。これは DNA ワクチンとよばれる次世代ワクチンで、普通、ワクチンはウイルスそのものの活性を失わせた不活化ワクチン、または病原性を弱めた弱毒ワクチンであって、その素材にはウイルス粒子全体またはその一部が用いられています。これらとは異なり、DNA ワクチンは、ウイルスの DNA を直接、筋肉内に注射し、それがわれわれの身体の中でウイルス蛋白質を作ることができるようにデザインしたものです。いわば裸の DNA そのものがワクチンとなります。

我々は現在、HPV の感染予防と癌治療を行う為の DNA ワクチンを研究・開発しています。今回は、口腔領域におけるヒトパピローマウイルス感染と DNA ワクチンについてお話しします。

担当:硬組織疾患制御再建学講座 川上 敏行